

子どもたちを交通事故から守るために

校長 青木 あゆ子

稲田小学校自慢の桜の木の葉も色づき、昇降口前が赤や黄色の模様で敷き詰められるようになりました。読書の秋、スポーツの秋などというように、学習にも最適な季節となりました。

そんな中ですが、先週は悲しいニュースを耳にしました。お隣の横浜市で、信号のある横断歩道を自転車で通行していたお子さんが、交通事故で亡くなられたとのこと。稲田小学校の学区内にも、交通量の多い道路がありますので、交通事故、特に自転車の事故を防ぐことについて子どもたちにもしっかりと伝えたいと思います。

以前勤めていた学校の話です。放課後、自転車で公園に行こうと急いだお子さんが、T字路から飛び出して車にぶつかり、数メートル跳ばされたことがありました。そのお子さんがかぶっていたヘルメットはひどい破損状態だったそうですが、お子さんはかすり傷で済み、翌日から登校していました。救急隊の方にも「ヘルメットがなかったら、大変なことになっていた。」と言われたそうです。同じ時期に教職員の親御さんが自転車で転倒して脳挫傷となり、入退院や手術を繰り返していたことを思うと、子どもたちにはぜひともヘルメットを着用してほしいです。

4月ごろ、私が校外で見かける自転車に乗るお子さんは、ほとんどヘルメットをかぶっていませんでした。夏休み前に全校朝会でも子どもたちに話し、担任からも伝えてもらいました。そのためか近頃では、10人のうち4人くらいはヘルメットを着用するようになっています。努力義務ではありますが、ご家庭でもお子さんのヘルメット着用をぜひ勧めてください。

また、特に高学年の児童には、加害者になる可能性についても伝えていきます。以前、坂道を自転車で下っていた小学生が、歩行者とぶつかり、歩行者が転倒して脳挫傷を負った事故があったそうです。児童はライトを点灯していましたが、ヘルメット未装着だったことなどもあり、保護者が監督義務を果たしていなかったとされ、約9500万円の賠償命令が出たそうです。

稲田小学校の学区には、踏切も多くあります。踏切内では線路の上などが滑りやすく、とても危険です。踏切内では自転車を降り、押して歩くよう指導しています。また、警報機が鳴ったら絶対に踏切内に入らないよう、家でもご確認ください。

先日、PTAでも交通安全を呼びかける看板づくりを行い、学区内の10か所以上に新しく設置していただきました。また、10月18日には、学校安全会議を行いました。宿河原町会、宿河原4丁目町会、宿河原5丁目町会、多摩新町自治会、長尾町会の皆さまも、毎日のように朝と下校時の子どもたちを見守ってくださっています。子どもたちも黄緑色のベストを着た方々に元気よくあいさつしているとのことでした。

今月も、学校、家庭、地域の皆さまと共に、子どもたちの安全を守っていききたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。